

群 教 セ	G11-02
	平15.213集

# 進路選択において自己決定力を 育成する指導の工夫

自己理解や高校情報の収集・整理に基づく

「決め手が決め手シート」の活用を通して

特別研修員 竹市 富夫

## 《研究の概要》

本研究は、中学3年生を対象に、進路選択において自己決定力の育成を目指すものである。具体的には、自己の生き方にかかわる高校選択の根拠を明確にするために、自己理解を深める、高校情報の収集・整理をする、希望する職業や志望校を考える活動を行った。選択の根拠を明確にするためのこれら一連の活動を通して、進路選択における自己決定力が育成されることを実践を通して明らかにしようとしたものである。

【キーワード：学級活動 進路指導 進路選択 自己理解 高校情報 自己決定力】

## 主題設定の理由

現代の中学生、高校生、大学生などの若者には、「進路希望をもつことができない」「自分で意志決定できない」「進路を選べない(選ぼうとしない)」といった傾向のあることが指摘されている。これからの進路指導は、幼少期から「自分で選ぶ」「自分で決める」ことを重視して、将来の生き方と進路の適切な選択に関する支援が重要になってくる。

中学3年生の本学級(生徒33人)において4月に行った進路アンケートでは、全員が中学卒業後は高校進学を希望していた。しかし、「自分の性格をあまり知らない」(14人)「志望校に関する情報が入手できない」(11人)「自分が将来何になりたいのか分からない」(5人)という悩みを挙げた。さらに6月初めの進路希望調査では、「家から近い」「入れそうなレベルだから」といった自分の生き方にあまりかかわらない根拠を挙げて、安易に志望校を決定しようとする生徒が少なくなかった。このような安易な高校選択は、将来について関心が薄く自己理解が不十分で自分の能力や適性を知らないこと、高校情報の収集や吟味が不足していて高校理解が不十分なことなどが原因であると考えた。

そこで、初めに「自分の高校選択で大切にしたい基準は何か」について、他者と意見交換したり、先輩からの体験談などを参考にし、自己理解や高校情報の収集・整理の必要性を理解させたい。次に、自分なりの高校選択の条件を決めるために、自己理解を深めたり、情報収集・整理をしたり、さらに希望する職業や志望校を具体的に考える活動を取り入れることによって、選択の根拠を明確にさせたい。これら一連の活動を通して、進路選択における自己決定力が育成できると考え本主題を設定した。

## 研究のねらい

学級活動「進路の決定」において、自己理解を深めたり、高校情報を収集・整理したり、希望する職業や志望校を考えることにより、志望校選定のための選択の根拠を明確にする。これら一連の活動を通して、進路選択における自己決定力が育成できることを実践を通して明らか

にする。

### 研究の見通し

- 1 学級活動 において、「高校選択で大切にしたい基準」について話し合い、「自分に合った学校に行くにはどうしたらよいか」を考えることで、自己理解をすることや高校情報を収集・整理することの必要性を理解し、その意欲が生まれるであろう。  
さらに、学活後、「ときめき私カード」を活用して自己の能力や適性を再確認する活動を行うことで、自己理解が深まるであろう。
- 2 学級活動 において、収集した高校情報や先輩のアドバイス情報などの資料をもとに、班で「高校案内」を作成することで、高校の理解が深まるであろう。  
さらに、学活後、「わくわく高校カード」を活用して各自で興味関心のある高校の特色を整理することで、高校選択の条件を意識できるであろう。
- 3 学級活動 において、「決め手が決め手シート」を活用して、自分なりの高校選択の基準を精選し、それと志望校との適合性を考える活動を行うことで、選択の根拠が明確となり、進路選択における自己決定力が育つであろう。

### 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 進路選択における自己決定力

進路選択における自己決定力とは、自己理解を深め高校情報を整理し、自己の生き方とかかわる選択の根拠を明確にもち、志望校選定に向かう能力である。4月の進路アンケートでは「高校選択で大切にしたいこと」の理由は漠然としていて、根拠を自己の生き方とかかわらせて述べられない生徒が多かった。そこで、生徒が自分の適性などを見極め、志望する高校の特徴を調べたり高校でのやりがいを見つけたりするなど、自己を見つめ将来について具体的に考える場面を多く設定することにより、自己の生き方とかかわる「希望する職業は なので」(将来の希望)「 が伸ばせる(が充実している) 高校で勉強したいので」(適性)など、選択の根拠を明確にして、志望校選定に臨むようにさせたい。

##### (2) 進路選択における自己決定力を育成する基本的構想について

第1段階：自己理解の大切さや高校情報の収集・整理の必要性を理解し、その意欲をもつこと。

第2段階：将来の夢・希望の再確認や中学3年間を振り返り、自己理解を深めること。

第3段階：高校側からの情報や先輩や友達との情報交換などを通して、多角的に高校情報の収集・整理をして、自己と高校のかかわりを考えること。

第4段階：将来の生き方や職業と志望校のかかわりを考え、高校選択の根拠を明確にすること。

##### (3) 「ときめき私カード」の活用について

「ときめき私カード」(次頁資料1)は、「将来の夢や希望」「興味があること」「友達からみたよい所」「親からみたよい所(保護者意見欄)」など11の観点で、中学校3年間の自己を振り返るためのものである。そして、最後に自己推薦文の形式で「自分のよさ・セールスポイントをアピールしてみよう」の欄に自分のよい面を表明するものである。このカードを活用することにより、多面的に自己を振り返ることができ、高校で伸ばしたい自己のよさや可能性に気づき、自己理解を深めることができると思われる。

資料1ときめき私カード(A4判一部省略)

ときめき私カード 番 氏名( )

将来の夢・希望 ↔ 立春式で誓った言葉

中学3年間の自分をまとめよう  
私はこんな人間です

長所	変えたい短所	興味があること
趣味 特技	得意教科	中学校の思い出
中学で頑張ったこと	友達からみた良い所	親からみた良い所

自分のよさ・セールスポイントをアピールしてみよう

自己推薦文を作成しよう

資料2わくわく高校カード(A4判一部省略)

わくわく高校カード 番 氏名( )

学校案内から、興味ある高校の特色をまとめよう

学校名	高校	科
気に入っているところ ひかれるところ	希望とちよつと 違うところ	
学校名	高校	科
気に入っているところ ひかれるところ	希望とちよつと 違うところ	
学校名	高校	科
気に入っているところ ひかれるところ	希望とちよつと 違うところ	

(4) 「わくわく高校カード」の活用について

「わくわく高校カード」(資料2)は、学級活動の「学校案内」の作成や高校情報発表会を通して入手した情報を「気に入っているところ・ひかれるところ(学校の雰囲気・学習面・部活動面・その他)」「希望とちよつと違うこと」の視点で高校の特色をまとめるためのものである。この活動は高校情報を幅広く理解することになり、自己と高校のかかわりをまとめた後、高校選択の条件を意識したりするのに有効であると思われる。

(5) 「決め手が決め手シート」について

「決め手が決め手シート」(資料3・次頁資料4)は、高校選択の根拠を明確にするために「希望する職業」を考え、自分なりの基準を精選し、その基準と志望校との適合性(一致の度合い)を5段階で判断してみるものである。将来就きたい職業を見通し、

資料3 決め手が決め手シート (A3判 横左半分 一部省略)

「決め手が決め手」シート 組 番 氏名( )

自分の希望する将来の職業と職業意識を再チェックしよう

希望する職業	仕事内容	必要な能力・資質
理由:		

職業意識再確認 をつけて

1 多くの人と協力してする仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>	一人でする仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>
2 頭脳を使う仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>	身体を使う仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>
3 人と話したり交渉したりする仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>	ものを相手にする仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>
4 毎日変化のある仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>	毎日同じ事を繰り返す仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>
5 技術的な仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>	事務的な仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>
6 時間が決まっている仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>	時間的に自由のある仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>
7 高度な技術や特別な能力を要する仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>	単純な仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>
8 特別な資格や免許を必要とする仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>	資格や免許のいらない仕事が好きだ	<input type="checkbox"/>
9 屋内の仕事の方が好きだ	<input type="checkbox"/>	屋外の仕事の方が好きだ	<input type="checkbox"/>

強く希望する観点は?  
(1~9のうち)

希望する職業で具体的にやってみたいことは  
どんなことですか?

決め手(基準)	内 容
興味関心	性格・興味関心・趣味に合っている
適性	学校の特徴が自分に合っている
体力・健康	体力面・健康面に合っている
将来の希望	将来の希望や夢、進路計画に近い
通学	学校が自宅から近く、交通の便がよい
保護者	保護者の考えや期待に合っている
環境設備	学校の施設・設備が整い、自分に合った環境である
学力	自分の学力に合っている
経済性	経済的に無理なく通うことができる
その他	

高校を選ぶ決め手(基準)は、またはその理由はどうですか?

基準	理由
	(この項目を6つ設けた)
	(以下略)

高校で身に付けたい能力を具体的に意識することで自己の生き方にかかわる選択の根拠を明確にでき、自己決定力が育成されると思われる。そして、選択の根拠を持ち、志望校の選定に臨むことは、主体的な進路選択につながると考えられる。このシートはその後の三者面談などで活用し、適切な進路実現に結び付けていきたい。

資料4 決め手が決め手シート (A3判 横右半分 一部省略)

高校選択の決め手(基準)をもとに、高校情報を活用して、自分が入学し、高校生活していることを想像して考えて、点数化してみよう

自分の高校選択の決め手(基準)をもとに、その実現度を5段階で判定してみよう

高校選択の決め手							合計	基準ごとに点数化してみて感じたこと・今の正直な気持ちをまとめよう。	
志望高校名									
高校 科									
高校 科									
高校 科									

実現予想点：5：十分達成できる 3：まあまあ達成できる 1：ほとんど達成できない

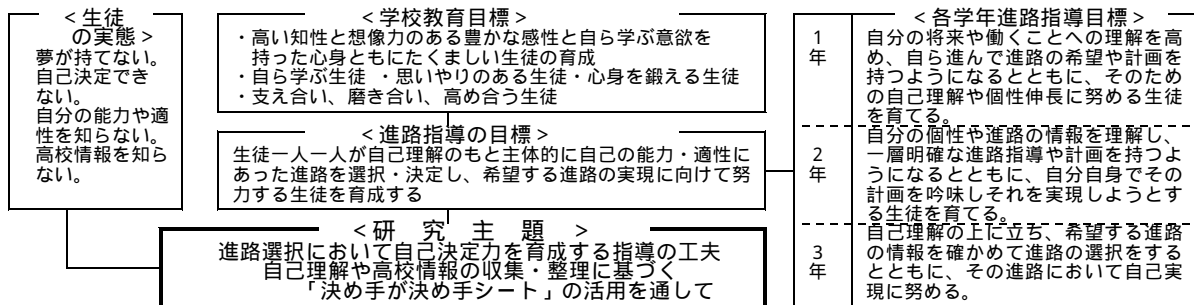
最終的に何を決め手として、受験する高校を決めるのか、自分の考えを詳しく書きましょう。

**私の進路希望**

自分の個性、興味関心、性格、能力、将来の職業、高校情報などについて今までの学習したことを振り返りながら、志望理由を詳しく書きましょう。

第一志望	_____ 学校 _____ 科 _____ コース
第二志望	_____ 学校 _____ 科 _____ コース
	第三志望欄まで設けた (以下略)

(6) 全体構造図



**【見通し3】 進路選択における自己決定力の育成**  
 (目指す生徒像) 高校選択の根拠を明確にして、進路選択における自己決定力をつけ、志望校の選定を行うことができる。  
 「決め手が決め手シート」を活用し、自分なりの高校選択の基準を精選し、それと志望校との適合性を考える活動  
 (手だて1)を行うことで、選択の根拠を明確にして、自己決定力を育成する。 **学活 (個人)**

**【見通し2】 高校情報の収集・整理と高校選択の条件の意識化**  
 (目指す生徒像) 情報収集した高校の特徴を整理し、「高校案内」を作成し、高校理解を深めることができる。  
 「高校案内」や「高校情報収集週間」を通して得た高校情報について、「わくわく高校カード」を活用して、自己  
 (手だて2)と高校のかわりを整理し、高校選択の条件を意識する。  
 志望校が同じ生徒で班を作り、その高校について、体験入学で入手した高校情報・Webページによる調査内容  
 (手だて1) 単情報などを収集・整理して、「高校案内」を作成する。 **学活 (集団活動)**

**【見通し1】 高校選択への意欲化と自己理解の深まり**  
 (目指す生徒像) 自己理解をすることや高校情報を収集・整理することの必要性を理解し、自己理解を深めることができる。  
 「ときめき私カード」を活用し、今までの自己を振り返る活動を行い、自分のよさやセールスポイントを自己推薦  
 (手だて2)文形式でまとめる。  
 「高校選択で大切にしたい基準」を話し合い、「自分にあつた学校に行くにはどうしたらよいか」を考え、自己理  
 (手だて1) 解や高校情報の収集・整理の必要性を理解し、その意欲をもつ。 **学活 (個人)**

## 2 実践の概要

考察にあたっては、アンケートやワークシートの記述内容、授業中・授業後の活動の分析を通して、学級全体及び抽出生徒A子の変容をとらえていく。

A子は4月の進路アンケートの段階では、希望の職業として保育士になることを考えていた。また進路の悩みとして「志望校に関する情報が入手できない・志望校が決まらない」ことを挙げていた。高校情報の収集・整理や自己と志望校のかかわりの認識が不十分な生徒である。

(1) 自己理解をすることや高校情報を収集・整理することの意欲が生まれたか。さらに「ときめき私カード」により自己理解を深めることができたか。(見通し1)

### ア 実践の概要

学級活動では6月の進路アンケート「高校選択で大切にしたいことは何か」の結果(「興味関心」「将来の希望」「学力」などを重視するクラスの傾向)を基に、今までの自分の進路についての考えを友達と交換し合った。その後、高校中退資料(新聞記事:「平成14年度県内中退者の推移」)や本校卒業生に追跡調査した進路アンケート(「現役高校生20人のアドバイス一覧」)を活用して、「中退しないためにはどうしたらよいか」「自分に合った高校を選んだ方がよいというアドバイスに対して今できることは何か」について考えを出し合いKJ法でまとめた。そして今後の高校選択の心構えを考えた。学活後、「ときめき私カード」に各自が記入し、最終的に「自分のよさ・セールスポイント」を自己推薦文としてまとめた。

### イ 結果と考察

話し合いでは、「興味関心」「将来の希望」「学力」などが大切であることは、表面的に理解できていても、自己とのかかわりでその根拠まで考えていない現状であることを学び、自己の生き方や高校進学への認識の甘さに気づいた。また、中退しないためには、「本当に自分に合っている高校がよく確かめて入学すること」など高校情報の収集・整理の必要性に気づいた生徒が20人となった。また自分に合った高校を選ぶためには、「将来何がしたいのかよく考える」「本当の自分の性格を知る」など自己理解の必要性に気づいた生徒は23人になった。

さらに、「今後の進路選択の心構え」については資料5のように、「自分を見つめ直すこと」「高校のことを詳しく知ること」などの手だてを

資料5 振り返り「進路選択の際、これからどんな心構えが必要とありましたか」

・まずは自分を見つめ直し、自分の得意なことや苦手なこと、興味のあることなどを発見し、そういうことから自分に合った高校を探すことが大切だと思った。  
・自分から進んで高校を調べたり、自分の特徴を見つめ直すのはとても大切なことだと思いました。これからは、ただ「ここがいい」だけでなく「なぜそこがいいのか」を考えていきたい。

考えた生徒が24人になったことから、自己理解・高校情報の収集・整理への意欲が高まったと考えられる。

学活後、「ときめき私カード」(前掲資料1)には、全生徒が11観点を具体的に記入できたことから、主体的に自己を見つめることができたと考える。そして、最後の自己推薦文では、「自分の個性を伸ばしたい」(17人)「希望の実現に向け頑張りたい」(9人)「特技を伸ばしたい」(6人)など自己の生き方とかかわる内容で、自分のよさを表明することができた。

A子は中退しないためには「本当に自分に合った高校なのか、高校に入学する前にきちんと考えることが大切」、自分に合った高校を選ぶには「体験入学に行きどんな高校なのか調べる・先輩からどんな高校か、どんな人に向いているか聞く」など具体的な手だてを考え、今後の進路決定に向け自己を知り、高校の情報を収集しようとする意欲が感じられた。「ときめき私カード」では、4月当初は保育士を希望していたが、自分の興味や性格面から判断して希望が変わり、「将来の夢・希望」に「自分のお店をもつこと(自分のデザインしたものを売りたい、花が好きなので花屋さんにもなりたい)」、「長所」に「やると思ったことはやりとげる」と書いた。自己推薦文には資料6のように人と接する商業系の仕事に就きたい希望を表現し、自分

のよさを「将来の職業の実現」と結びつけて表明することができた。

以上のことから自己の高校選択の根拠のあいまいさに気づき、高校中退資料や先輩のアドバイスを基に「自分に合った学校に行くにはどうしたらよいか」話し合う活動を取り入れたことは、高校

資料6 A子「ときめき私カード」 一部抜粋(自己推薦文)  
「自分のよさ・セールスポイントをアピールしてみよう」

私は一度やると思ったこと、興味をもったものを絶対にやりとげる自信があります。その気持ちはだれにも負けません。私は人と接することが好きだし、自分でデザインしたものを売ってみたいと思っています。もし、自分のお店をもったらきちんとリーダーシップをとって頑張ります。私はあいさつをすることが好きなので誰にでもしっかりあいさつをします。私はあいさつをすごく大事なことだと思っています。

を選択する上での様々な問題点に気づくことにつながり、自己理解することや高校情報を収集・整理しようとする意欲が生まれたといえる。

さらに、「ときめき私カード」で、今後の生き方を考え自分のよさを表現したことは、全員が自己を見つめ直すことにつながり、自己理解を深めることができたと考える。

(2) 高校情報を収集・整理し「学校案内」を作成することで、高校の理解が深まったか。さらに「わくわく高校カード」により、高校選択の条件を意識できたか。(見通し2)

#### ア 実践の概要

学級活動では、桐生地区を中心とした15校(公立12・私立3)の高校について志望校が同じ生徒2人1組で分担を決め、体験入学で入手した情報・高校側が発信するWebページやパンフレット・先輩情報(現役高校生40人からの高校情報「時間割」「こんな人が向いている」「進路選択のアドバイス」などをまとめたもの)・友達の高校体験報告書などを基に「学校案内」を作成した。

帰りの会で「高校情報収集週間」を設定して、「学校案内」にまとめた高校の特色(キーワード3つ)を発表し情報交換をした。さらに「わくわく高校カード」(前掲資料2)に、興味関心のある高校を3校程度に絞り込み、自己と高校のかかわりを整理した。

#### イ 結果と考察

生徒は、「学校案内」を作成する活動を通して、友達の体験入学報告書を読み、自分と異なる高校の見方に気づいた。また先輩情報を高校案内パンフレットと比較しながら注意深く目を通し、「高校の時間割」を見て知らない「科目名」について内容を教師に尋ね、具体的な高校生活を考えることができた。また、「先輩(在校生)の言葉を見て、どんな人が向いているか詳しいことがわかり、自分のイメージが膨らんできた」と感想に述べたことから、先輩情報が高校理解に役立ったと思われる。

帰りの会では高校ごとにキーワードにまとめた「文武両道」「部活が盛ん」「国際交流」などの内容の説明を通して、授業の特色や入試情報など細かな高校の特徴を伝えた。

「わくわく高校カード」の「気に入っているところ」の記述を分類すると、将来の希望する職業を意識した「資格取得」関係が17人、上級学校への進学を意識した「学習進学」関係が11人、「部活」関係が4人となった。

A子は、夏休みに体験入学に参加したY高校をまとめた。パンフレットを詳しく見て、「卒業生の進路先」や「取得できる資格」について友達と話し合ったり、学区外のために「試験が難しく、通学にやや不便である」とつぶやき、Y高校で学ぶことへの期待と同時に不安も表していた。発表会では、「部活」「広い」「元気」をキーワードとして「学区外にあるので通学が不便である」「吹奏楽部の活動が盛ん」「施設が充実している」などの特色を強調した。また、「わくわく高校カード」(次頁資料7)では、当初Y高校を志望して調べていたが、他の班の「学校案内」を見たりすることによりX・Z高校まで興味関心を広げたことがわかる。商業系の職業に就きたい希望をもっているため、自己と高校のかかわりを考え「コンピュータを使う

授業が多い」といった「学習進学」関係の高校選択の条件を意識した。

以上のことから、「学校案内」の作成や発表会の活動を行ったことは、自分だけでは気づかなかったことやわからなかったことを今まで以上に知ることにつながり、具体的に幅広く高校の理解が深まったといえる。また、「わくわく高校カード」で、興味関心のある高校の特色を整理したことは、選択の根拠があいまいであった生徒が自己と高校の関係を考えることにつながり、高校選択の条件を意識できたといえる。

(3) 高校選択の基準を精選し、それと志望校との適合性を考える活動を行うことで、選択の根拠が明確となり、進路選択における自己決定力が育ったか。(見通し3)

#### ア 実践の概要

学級活動 で「決め手が決め手シート」(前掲資料3・4)を活用して、希望する職業や志望校のかかわりを考えながら自分なりの高校選択の根拠を決めた。そしてその根拠をもとにして、志望校を選定し、第三志望までの志望理由を考えてまとめた。

#### イ 結果と考察

「決め手が決め手シート」を活用して、職業意識を確認して希望する職業と自己のかかわりを考えた結果、28人の生徒が「一流シェフのようなおいしいお菓子をつくりお客様に買っただきたい」など具体的に職業に就いている自分の姿を考えることができた。そして、資料8のように学級活動 の時点で根拠があいまいであった生徒が、一人平均3～4個、理由を明確にして自分なりの基準を精選した。特に、24人の生徒は自己の生き方にかかわる「興味関心」「将来の希望」だけでなく、「学力」「通学」など現実的な関心事も合わせて高校選択の基準とした。「学力」という現実的な合格の可能性までを考えて、高校選択を意識したことは、学級活動 ・ を通して自己理解や高校の理解が深まった結果であると思われる。次に、その基準と志望校の適合性を考えたことは、「点数化することで頭の中で考えるよりも、どの高校が自分に合っているかはっきりした。3つの高校を比較して最も自分に合った学校を選ぶことに役立った」と感想にあるように、自己の基準と志望校の関係を具体的にイメージできたり、客観的に比較できたりして、自分なりの根拠を深く考えることにつながり、根拠を明確にする上で役立ったと思われる。そして、志望校の選定では、第一志望について「将来は検事になりたいので法律関係の大学に進学したいです。そのため、授業内容が充実し進学実績のあるW高校に進学を希望します。」など、「将来希望する職業」や「高校との適性」を根拠とした志望理由を約9割の生徒が書けた。また、この学習直後の三者面談では、どの生徒も第一志望の説明では、「決め手が決め手シート」を参考にして志望理由を明確に表明し、自己決定したことに対する自信や今後への意気込みが伝わってきた。

A子は「自分のデザインしたものを売るお店を建て、たくさんの人の意見を聞いて来やすいお店をつくる」ことを希望していた。そのために、まず高校選択の基準として「将来の夢(自分のしたい仕事に合っていることが大事だから)」「興味関心(人と接することが好きな自分の性格に向いているから)」「適性(自分の能力とその高校が合っていることが大切だから)」

資料7 A子の「わくわく高校カード」(一部抜粋)

気に入っているところ ひかれるところ	希望とちょっと 違うところ
X商業 商業科 一人一人が生き生きしている <u>コンピュータを使う授業が多い</u> 吹奏楽部が有名	なし
Y高校 普通科 全体的に校舎内・校庭が広い 英語が二つに分かれている 体操や吹奏楽部が活発	遠い
Z高校 保育心理系 明るい 科がたくさんある 野球部が活発	なし

資料8 高校を選ぶ決め手(基準)

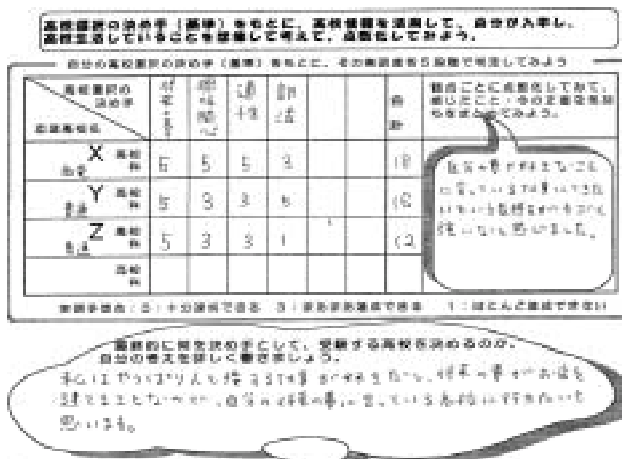
興味関心	25	環境設備	10
将来の希望	24	経済性	7
適性	21	体力健康	6
学力	19	保護者	6
通学	12	部活	4

(全員で31人 複数回答)

「部活（吹奏楽部に入って頑張りたいから）」の4つに決め、その理由も明らかにできた。次に資料9のように自己の基準とX・Y・Z高校との適合性を考え点数化したところ、商業系の職業を希望していることから、普通科のY・Z校は「興味関心」「適性」に「3」を付けた。商業科のあるX高校は、夢の実現や資格取得できる能力や合格の可能性も考慮して、適合性が高いと判断して「将来の夢」「興味関心」「適性」に「5」を付けた。さらに第一志望のX高校の志望理由には「将来の夢がお店を建てることであり、簿記検定や商英検定などの資格も取得でき中学からの吹奏楽部も続けることができるから」と書き、「将来の夢」「資格所得」「部活」など自己の生き方にかかわる根拠でまとめた。

以上のことから、「決め手が決め手シート」を活用して、基準を精選し志望校との適合性を考えたことは、自己・職業・高校の関係を総合的に判断することに役立ち、自己の生き方にかかわる高校選択の根拠を明確にすることができ、生徒に進路選択における自己決定力が育ったと考える。

資料9 A子の「決め手が決め手シート」一部抜粋



## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

「高校選択で大切にしたい基準」や「高校中退の解決策」や「自分に合った高校に行くにはどうしたらよいか」などを話し合う活動を通して、自己理解することや高校情報を収集・整理する意欲が生まれた。「ときめき私カード」では自己理解を深めることができた。

収集した高校情報や先輩や友達との意見交換を通して「学校案内」を作成したことで、多面的な高校理解ができた。「わくわく高校カード」では高校選択の条件を意識できた。

「決め手が決め手シート」を活用して、将来希望する職業や志望校を判断することで、高校選択の根拠が明確となり、進路選択における自己決定力を育成できた。

### 2 今後の課題

進路指導の中で生徒の意思決定を大切にするためには、しっかりとした根拠をもって選択する学習が必要であると考えられる。そのためには、日頃から自分はどんな人間か考える自己理解が重要であると共に、判断の根拠となる情報収集が必要である。そして、両者をふまえて、判断理由をしっかりと選択・行動する経験の積み重ねが大切である。

#### <参考文献>

- ・『進路学習を核とした学級活動の展開』 実業之日本社
- ・『中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン』 実業之日本社
- ・『エンカウンターで進路指導が変わる』 図書文化
- ・『進路指導 第75巻 第9号』 財団法人日本進路指導協会（2002）
- ・『特別研修員研究報告書 第206集（学校経営課）』 群馬県総合教育センター（2003）